

## 超巨大噴火の予測を目指し、附属練習船深江丸による 鬼界海底カルデラの探査航海調査を開始

神戸大学海洋底探査センター長 巽 好幸

連絡先（研究室）078-431-4617

Mail:office@k-obec.kobe-u.ac.jp

神戸大学では平成27年10月に「海洋底探査センター」を設置し、巨大カルデラ火山の噴火予測に向けた研究を開始しました。今後100年の発生確率が1%である巨大カルデラ噴火は、我が国で起きる災害の中でも最も危険度（＝被害者数×発生確率）の高い自然災害であり、その発生予測は世界一の火山大国である日本における重要課題の1つです。しかしこれまでの火山観測は小規模噴火の監視に焦点を当てていたために、巨大マグマ溜まりの存在すら確認されていません。比較的大深度（約10km）に位置する可能性の高い巨大マグマ溜まりの高精度イメージングには人工地震を用いた大規模な観測が必須ですが、人口密集域近隣の陸上火山ではその実施は困難です。そこで、海域に位置し、しかも日本列島で最も直近（7300年前）に超巨大噴火を起こした「鬼界カルデラ」をターゲットとし、最新鋭の観測装置を装着した神戸大学大学院海事科学研究科附属練習船の「深江丸」を用いてマグマシステムのイメージングと、モニタリングを計画しています。

昨年来進めてきた観測の準備が整い、10月13日から15日間の第1回観測航海を実施します。今回の最大の目的の1つは、カルデラ内に存在するドーム状の隆起地形を精密に把握し、内部構造と合わせてその成因を明らかにすることにあります。

また地震計、電位差計および磁力計を海底に設置し、次回（平成29年3月）航海で回収するまで、鬼界カルデラ下での地震活動やマグマ活動を観測します。

同時に、海底火山活動に伴う鉱床形成過程を明らかにするために、特にカルデラ内における熱水活動の調査を行います。

巨大カルデラ火山におけるマグマシステムの高精度イメージングは世界で初めての試みであるため、注目される探査航海調査です。